

交流集会「放射線看護の専門性と役割開発
——放射線看護の高度看護実践教育課程修了生の
活動から——」

Professionalism and role development in radiological nursing:
From the activities of graduates of the advanced nursing practice
education course in radiological nursing

新川 哲子¹ 森下 暁² 大石 景子³
村上 優人⁴ 牧谷 美佳⁵ 野戸 結花⁶
松成 裕子⁷ 西沢 義子⁸ 太田 勝正⁹
大森 純子¹⁰ 堀田 昇吾¹¹

Tetsuko SHINKAWA¹ Akira MORISITA² Keiko OOISHI³
Yuto MURAKAMI⁴ Mika MAKITANI⁵ Yuka NOTO⁶
Yuko MATSUNARI⁷ Yoshiko NISHIZAWA⁸ Katsumasa OTA⁹
Junko OMORI¹⁰ Shogo HORITA¹¹

1 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

2 長崎大学病院

3 長崎医療センター

4 弘前大学医学部附属病院

5 環境省放射線健康管理担当参事官室

6 弘前大学大学院保健学研究科

7 鹿児島大学大学院保健学研究科

8 弘前医療福祉大学保健学部

9 東都大学沼津ヒューマンケア学部開設準備室

10 東北大学大学院医学系研究科

11 東京医療保健大学東が丘・立川看護学部看護学科

1 Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences

2 Nagasaki University Hospital

3 Nagasaki Medical Center

4 Hirosaki University Hospital

5 Office of Director for Radiation Health Management, Ministry of the Environment

6 Hirosaki University Graduate School of Health Sciences

7 Kagoshima University Faculty of Medicine School of Health Sciences

8 Hirosaki University of Health and Welfare, School of Health Sciences

9 Tohto University, Faculty of Human Care at Numazu, Opening Preparation Office

10 Tohoku University Graduate School of Medicine

11 Faculty of Nursing, Tokyo Health Care University

長崎大学、鹿児島大学、弘前大学では放射線看護の高度看護実践者育成に向けた大学院教育（修士課程）を開始し2019年に修了生を輩出している。現在、放射線看護専門看護師（仮称）に向けてそれぞれの施設で活動を開始している。しかし、放射線看護専門看護師のロールモデルが不在の中で手探りでの活動を強いられている。放射看護専門看護師（仮称）としての役割も明確ではない状況である。

この度、日本放射線看護学会学術推進委員会の下部組織である放射線看護専門看護師（仮称）活動支援ワーキンググループでは、高度看護実践教育課程修了生の活動を共有し、放射線看護専門看護師（仮称）の将来像を描く一助としたいと考え、本交流集会を企画した。はじめに、修了生3名が活動報告を行い、専門看護師の先輩であるがん看護専門看護師からアドバイスをいただいた。大石氏はがん患者の対応、スタッフとの情報共有などの活動や困難事例の実践例を紹介し、放射線診療が患者に与えるメリット・デメリットの平衡に加え、患者の苦痛や患者が希望する生活との均衡に視点を置いて医療放射線利用について発言することで、患者の治療選択や意思決定を支援していく重要性を述べ、放射線診療の進歩は目覚ましく、日々更新されている情報収集が重要と結んだ。村上氏は実践活動の紹介、スタッフへの教育や学習会の開催、倫理調整について紹介し、役割開発に向けた課題として自己だけではなく、放射線診療に携わるスタッフすべての放射線に対する知識の向上、リーダーの育成、他科との交流などが必要と述べた。牧谷氏は甲状腺検査を実施する福島県外の検査実施医療機関の担当者に対するコーディネーション事例について紹介し、省庁内に放射線や放射線による健康影響に関する知識を有する看護職がほとんどいないこと、今後の原子力災害への備えとして看護の視点をもって対策を検討していくことが必要と述べた。がん看護専門看護師の森下氏はスタッフとの情報共有、専門看護師間の連携の重要性について強調された。意見交換では、臨床における学習会、カンファレンスの企画についてなどの質問があり、考え方や課題について共有できた。

本交流集会は61名の参加者であったが、WEB調査によるアンケート回収は21名に留まった。最も印象に残った役割は臨床における実践が14名であり、放射線についての出前講座を依頼したいと回答した人が9名であった。今回のような修了した方の実践を継続して聞きたいという声もあり、次年度もぜひ継続したいと考えている。